



(単位千円)

昭和42年度事業計画(八代臨海工業地帯整備)

事業種別	事業量	事業費	摘要
八代臨海工業地帯整備		897,491	
A、八代港整備		782,991	
直轄		370,000	
	岸壁(—10) 370m	251,400	
	岸壁取付袖 72m	37,500	
	泊地浚渫(—10)	67,300	
	〃(—9.0)	10,400	
	岸壁(—7.5) 194.7m	3,000	
	岸壁取付袖 5m	400	
補助		378,991	
	岸壁(—5.5) 270m	114,000	
	岸壁取付袖 25m	8,600	
	泊地浚渫(—5.5)	42,000	
	道路舗装 105,881m <sup>2</sup>	109,060	
	導流堤移設 3,770m	88,311	うち 51,911千円は41年度繰越分 41年度繰越分
	航路浚渫(—1.0)	7,080	
機能設備		34,000	
	埠頭用地 220,000m <sup>3</sup>	18,000	
	荷役機械 2基	16,000	繰越分
B、工業用地造成		114,500	
	護岸 1,300m	22,000	41年度繰越分
	埋立(流用) 3,451,000m <sup>3</sup>	15,700	うち 11,500千円は41年度繰越
	整地費 2,101,000m <sup>2</sup>	3,000	
	建設利息	73,800	元金を含む

# 氷川の総合開発計画

不知火海に注ぐ氷川の上流、八代郡泉村下岳地内に高さ五十メートルのダムをつくり、氷川の洪水を調節して被害の防除軽減をはかる一方、ダムにたまった水で農業水利や、上水道の事業を行ない発電所を設けるなどして地域産業の発展をはかろうとするものだが…。

(注・この項では主として土地改良のみに焦点をぼり、上水道、発電は省略した)

## 氷川地区の土地改良事業

氷川は、球磨川、緑川、菊池川、白川につく、県内五番目の河川で、県のはほぼ中央を西流し不知火海にそそぐ、延長三十一キロ、流域面積百四十九平方キロの中型河川であり、八代郡泉村、東陽村、宮原町、鏡町、竜北村を貫流し、同地域の水田を養っている重要な河川である。

この河川の開発調査は、昭和三十二年度から不知火海干拓計画調査の一環として調査を開始し、更に、昭和三十六年度からは、氷川総合開発計画として調査に着手した。

土地改良関係の調査は昭和四十年年度から調査を始めたが、開発構想として水田地帯の干ばつ被害の解消、並びに中

下流の丘陵みかん園の畑地かんがいを対象として各種の調査を行なっている。総合開発計画としては、当初河川にダムを設置し、河川流量を調節して、下流域の洪水被害を防止する治水を中心として、発電、下流域の上水道及び、農業用水の開発をするという多目的な開発構想であったが、調査の進展に伴い、現時点では、治水と上水道事業によりダムを築造し、農業用水は、新規利水の畑地かんがい用水も含めて、全て不特定利水となっている。

即ち農業用水は、新設のダムから不足水量の供給は受けるが、ダムの建設費の負担は要らないわけである。これは、農

業用水の新規需要量が既使用量に対して比較的少量であることと、他の事業とは異なり、直接の受益者負担があるためで、農業用水の負担は、治水事業(国と県)が負担することとなったのである。土地改良事業計画は、水田の用水補給とみかん園の畑地かんがいであるが、それぞれ次のとおりである。

### 水田の用水補給

下流の平坦な水田地帯を対象として、南は国営八代平野土地改良事業の受益地に接し、北は砂川を境界とするほぼ千五百畝を考えている。この地域は現在、氷川、砂川及び、地区内の湧水によってかんがいでいるが、特に下流地帯は干ば

つ常習地帯で、地下水利用により減産防止を図っているが、年々干ばつ被害を蒙っている現状である。従って、用水計画としては、現在の一の井手地点に各井堰を合わせて、それぞれの地域にコンクリート・ライニング水路により用水を導き、用水の合理的配分を図る計画である。

事業内容としては、頭首工の新設一カ所、用水路約二十キロ、概算事業費は約五億円を見込んでいる。

### 畑地かんがい

中下流の丘陵地帯は、果樹園適地でもみかんの栽培が盛んであるが、水源に乏しく、防除用水にも不足する状況であり、